

令和6年度 自己評価及び関係者評価

加古川市立氷丘幼稚園

- 1 教育目標 『心豊かに学び合い 育ち合うこどもの育成』
- 2 目指すこども像 ①心も体も健やかで 明るい子 ②思いやりがあり 心の優しい子 ③様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 ④自分の思いを伝え 素直に 表現する子
⑤感じる心 考える力がある子
- 3 評価基準 A：十分できた B：ほぼできた C：少し課題を残す D：不十分

重点目標	評価の観点	自己評価	◎成果 △課題 ※改善の方策	関係者評価	
基本的な生活習慣の確立と決まりある生活態度の育成	・ 幼児期にふさわしい生活が展開され、幼児一人一人の発達課題に即した育ちが保障されたか。	B	◎世界の挨拶で毎朝、挨拶することで世界に興味や関心を広げるとともに挨拶することに意欲をもつことができた。 ◎個々の発達や特性に合わせた援助を考え、試行錯誤することで基本的な生活習慣は身に付いてきている。 ◎行き来可能な立地条件を生かし、氷丘南幼稚園との合同保育は年間を通して実施することができた。 △一人一人に寄り添い、援助するよう努めたが、難しさを感じた。 △安全面に配慮しながら、ねらいや目標につながる遊びに応じた環境を整える必要がある。 ※日々、こどもの遊びの様子からその遊びや個々のねらいを振り返り、教師間で話し合い、再構成する機会を増やす。 ※職員ひとりひとりが実行できるようにこどもの実態と日々の遊びの様子や個々がすべきことを具体化できる話し合いの進め方を工夫する。	・ 世界の挨拶は大人も面白く、興味や関心が広がった。挨拶を心掛けるきっかけとなったことは嬉しい。 ・ ひとりひとりに合わせた工夫が見られた。身に付いた生活習慣が次は継続していけるように見守ってほしい。	A
	・ こどもの発達段階や地域の実態に即し、幼稚園の特性を生かした内容であったか。	B			
	・ 園舎、園庭が幼児にとって安全に主体的な遊びを展開できる環境であったか。	B			
様々な体験から感動する心、命を感じる心や社会生活に触れながら道徳性の芽生えを培う。	・ 自然体験や様々な人々との交流などを通して、豊かな感性や思いやり、社会性を培う心の教育ができているか。	B	◎世界をテーマに遊んだことで共通の目的となり、こどもの興味が広がり、職員は新たな視点で考える機会となった。 ◎後半は4、5歳児と一緒に遊ぶことが増え、個々の興味や意欲を支えることにつながった。生活発表会ではひとつの題材でそれぞれの思いや考えを尊重しながら遊ぶことができた。 ◎氷丘南幼稚園との合同保育や外部からの講師を招いての活動を通し、社会性や広い視野が育まれている。また、単学級、少人数では難しいことも実現できた。 ◎世界の多様性を学ぶことにつながるテーマや日々の自然な関わりがこどもの違いを認める心の芽の育みにつながっている。 △日々の保育記録から振り返り、次の保育へつながる準備や再構成を考える研修の機会が必要である。 △個々の育ちや学びを踏まえて友達との関わりを深められるように内面理解と見極める力、臨機応変に対応する力がさらに必要である。 ※こどもの学びや育ちにつながるように具体的な再構成の話し合いをもつ。	・ 4、5歳児と一緒に過ごすことで憧れや思いやりの心が芽生えている。園児数が減っているからこそ、関わる機会が必要。 ・ こどもの興味や関心から、その思いに寄り添い、保育をしており、保育教諭もこどもも楽しんでいることがよく分かる。	A
	・ こどもの内面理解に努め、教師の関わりや援助は適切であったか。	B			
	・ 今なお残る差別の実態を直視し、課題を深く認識するなかで自らの問題として捉え、あらゆる生活の場で人権教育・啓発を推進しているか。	B			
思いやりの心を持ち、自立と協同の態度を培う	・ 発達に必要な経験ができたり、主体的な遊びが展開できたりするような環境が構成されていたか。	B	◎一人一人の個性を尊重し、発達を把握しながら、思いや考えに寄り添う意識をもちながら保育に取り組んだ。保育教諭の姿勢や態度がこども達へとつながっている。 ◎こどもの主体性を重視した取組を意識して取り組み、こども達のいきいきとした姿が増えた。 ◎世界をテーマに様々な視点で遊んできたことで、こども一人一人の興味や関心が広がり、学びにつながった。 △チームとしてさらなる力につながるように職員ひとりひとりがこどもの主体性につながるねらいとそれにもなった環境づくりを考え、実践することが不十分であ	・ こどもひとりひとりに必要な支援を考えて、工夫が見られる。 ・ どの行事も、発想が豊かで面白く、楽しいものであつ	A
	・ 人間関係を大切にし、どんなことでも話し合えたり、自己を高め合ったりするクラスや職場の雰囲気づくりができているか。	B			

	・各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意・工夫がされこどもにとってふさわしい内容であったか。	B	る。 ※視野を広げ、柔軟な捉え方につながるようにこどもの実態から環境構成を考える機会をさらにもつ。	た。次年度も楽しみにしている。	
保育教諭としての専門性を磨き、資質向上を図る	・積極的に園内外の研修に参加し、自らの資質向上に努めているか。	B	◎様々な研修を受けるとともに、意見を交換したり保育を見せてもらう機会をもったりして、学んだことを実践しながら保育力向上に努めることができた。 ◎警察を交えた防犯訓練を実施したことで、再度、園内環境を見直したり対策を考えたりするよい機会となった。 △配慮の必要なこどもへの援助や参加の仕方を考え、話し合いも積み重ねてきているが、さらなる専門性を高める必要がある。 △各自が積極的に自分の考えを伝えたり、保育に生かしたりする環境づくりが必要である。 △防犯訓練をしたことで意識は高まると同時に新たな対策の必要性があることを感じた。 ※年間通してバランスのよい互いの保育を見合う機会と環境構成と援助を考え合う場を増やす。 ※様々な想定での対策と訓練の機会をもつ。	・忙しい中で、オンラインも利用しながら、一緒に学ぶ機会をもったり、たくさんの専門的な研修にも参加したりしている。 ・防犯訓練は対策を見直すよい体験となっている。さらなる危機管理につなげてほしい。	A
	・時代の流れや社会の状況の変化に対応した幼稚園教育のあり方、教育課題の把握に努め、解決に向けた取り組みができたか。	B			
	・安全や防災に関する組織を確立し、防災知識や危機管理の向上に努めたか。	B			
	・多様な障がいの状態に応じた指導内容や方法、教育的配慮ができるように専門性の向上に努めたか。	C			
地域・家庭・学校と連携、協働し、教育力の向上に努める	・保護者の願いや期待を受けとめ、共通理解のもと連携して保育を進めてきたか。	B	◎園だよりや園通信、ホームページ、降園時の話等を通して、保護者との連携を図りながら、こどもの取り組みや遊びの過程、その中の学びを伝えてきた。 ◎園と家庭それぞれのこどもの様子を共有しながら、保護者とともに考えるよう努めた。 △タイムリーに伝えたいが園通信等の作成時間が取りづらく、遊びの過程や学びの伝わりにくさにつながっているところがある。 △できる限りの努力をしてきたが、実情や実態と保護者のニーズにズレもある。 ※業務の分担や担当を見直し、短時間でできる園通信の検討と作成時間確保のための工夫。 ※保護者への理解を求めて、時間の確保をしていきたい。	・距離や陰などを考慮し、安全に行き来ができるように地域に協力を得ながら、合同保育の実現は、こどもにとって貴重な体験となっている。続けてほしい。 ・小学校との新たな交流が実現したことは喜ばしい。かけはし期を意識しながら交流を深めてほしい。	A
	・地域の人々の積極的な協力を得たり、地域の施設や環境などを園の教育活動に生かしたりしたか。	B			
	・園だよりや園通信、懇談等により園の目標や方針を知らせ、保護者と相互理解するとともに信頼関係を深めていくことに努めたか。	A			